ドラッカー・ブックレビュー

名講義、再現。

リック・ワルツマン／宮本喜一訳『ドラッカーの講義 1991-2003』アチーブメント出版

評者　大木英男

著者リック・ワルツマンはクレアモント大学院大学ドラッカー・インスティテュートのエグゼクティブ・ディレクターである。氏はドラッカー思想のよい理解者・信奉者であると同時に、コラムニストやノンフィクション作家など幅広い活躍をしている。

本書は、1991 年から 2003 年までにドラッカーが行った講演内容やクレアモント大学院大学での講義内容を 17 ケース選定して収録している。しかし、講演や講義内容をそのまま文字にしたのではなく、著者が再構成したものであり、それだけに簡潔・論理的で読みやすくなっている。

たとえば「新たな優先課題」（1991 年；ワシントン記者クラブでの講演）では、この時点におけるアメリカが取り組むべき 3 つの優先的な課題を提示している。それらは、アメリカのみならず、日本にとっても重要な提示である。

それと同時に、ソ連崩壊を予測した『新しい現実』の出版（1989 年）の際に、発行人がヘンリー・キッシンジャーに書評を頼んだところ、（ソ連崩壊予測について）「長年お付き合いしている関係なので、ドラッカーさんがもうろくしたとは言いたくありません」と返事したという。それを聞いてドラッカーが「にやり」としたのではないかという楽しい想像がかきたてられるエピソードも紹介されている。

また、1998 年の「規制緩和と日本経済」という講演では、戦後官僚が規制緩和をしなかったことで、農業と小売業が健全に成長したこと官僚を肯定する。だが今後の人口構成から考えると、日本は規制緩和をせざるをえないことは認めつつ、「早急な規制緩和は非常な痛手となるでしょう」と警告している。実にわれわれの胸を刺すフレーズである。

このように、各講演・講義においてドラッカーは、実に多くの分野で卓越した論陣を張る。そして、講義におけるスタイルは、机に腰かけてのリラックスしたものだという。それにしても、講演・講義という場で速射砲のように発射される数字・事例・領域は、ドラッカーの独壇場とするところといえるだろう。